

第29回市民ふれあいトークー地域力を活かすまちづくりー

日時 平成23年5月26日 18:30~20:00

場所 福田南公民館

要約版

《市長》

改めまして、皆様こんばんは。

今日は、雨が降っており夕方のご飯時の忙しい時間帯に市民ふれあいトークに参加いただき誠にありがとうございます。この市民ふれあいトークは各中学校区の公民館にありまして、その時々市の状況とか、その時々重要なトピックスとか、そういうことについて皆様と意見交換をさせていただき会となっております。8時くらいまでの1時間15分、最初に私から最近の状況でとか災害の状況とか、防災のこととか、そういうことについてお話をさせていただきます。

今週の月曜日だったでしょうか、新聞の記事で、明治の17年にこちらで大変な災害がありまして、明治天皇陛下から見舞金を賜わり、それで布団を作って全戸へ配ったという記事が出ておりました。また、全国的にみなさん東日本の災害のことに非常に気を配っていただいていることと思います。

倉敷市におきましても3月11日に災害が起こり、11日に準備をして、特に消防緊急援助隊と給水部隊と、2つをすぐに派遣しなければいけないと、その日から準備をして、次の日の朝、出発をいたしました。まだどこに行くか決まっていなかったのですが、とにかく東へ行こうということで、市の赤い車とか、救急車とか。消防車7台と22名の職員と、水道局の給水車1台で、東へ向かうことになりました。次の日、名古屋へ行ったところでやっと、宮城県の仙台、多賀城市に行くということが決まり、次の日に救援活動を始めたような事でした。職員が言いますには、給水場で給水車を待つ方が300mくらい列を成して、我々の給水車がつきましたら拍手で迎えてくださったと言っておりました。赤い車の消防も岡山県倉敷市と書いてありますから、皆さんには非常に遠くから来てくださっていることが一目でわかり、車に向かって手を合わせてくださったり、職員が、これは一生懸命やらなければいかん、ということで、がんばってやってきたと言っておりました。これまでの間、倉敷市では総勢で200名近く、市の職員が行きまして活動しております。今日広報紙を持ってきているのですが、ちょうど今日ぐらいから配布になっているかも知れませんが、6月号の広報紙に東日本震災で、我々が活動した、ということが岩手、宮城、福島の3つの県で11の市と2つの町に対し支援しております。今一番大きく展開していますが、宮城県の松島町の災害瓦礫の全部を倉敷市が担当しまして、内から環境部の職員が15名、ダンプ、パッカー車、シャベルカーと全部水没して使えなかったもので、こちらから重機をもって行きました。今ではほぼ2ヶ月位になるかと思いますが、ずっと駐在をしまして、一手に引き受け仕事をしています。もう1つは、医師、保健師を岩手県の大船渡市、陸前高田市に派遣をしており、避難所の担当をさせていただいております。それから市民

の皆様方の活動を市としても応援したいということで、テレビなどでも言われておりますが、岩手県の遠野市の内陸の『遠野物語』の遠野です。そこが岩手の沿岸部全部の避難の救援地になっていますので、ここに倉敷市の拠点を、向こうの遠野市と相談して、30 畳くらいの畳の公民館で、炊事場とかついていますので、そこに市民の皆様が行っていただいた場合にそこから拠点で活動できる仕組みを作っております。5月の連休直後に、現地の市長さんと、町長さんと今後の相談をしないといけないという事で、行きました。そのとき言われたのが、連休の時には非常に多くのボランティアの方が来てくださったと、それで連休が過ぎましたら、皆さんお仕事もあって数が急に少なくなってやっとこれから家の片づけをしようというところになって、困ったなということになり、少しでもこちらから、また全国から長い支援をしていければいいなという次第です。

今後の防災全般的なところでは、特に皆様に関心のあるところだと思いますが、倉敷市の防災についてせつかくですので少しお話をさせていただきたいと思います。これは何かと申しますと、皆様のご家庭に「我が家の津波ハザードマップ」というのをお配りしております、青い分でございますが。これのこの地域の分をコピーして持って参りました。この災害のことにつきまして、私ども16年の台風災害のときに、児島、玉島を含めまして倉敷の沿岸部全部で約5,000世帯くらい、床下、床上浸水をしております。

その時の浸水区域は書いていないのですが、その事でありまして、今後起こるであろう地震のときの津波に対して、簡単にご説明させていただきます。この黄色のところは約50センチ位、緑のところは50センチから1メートル位、青いところが1～2m段々濃くなっていくと2～3mという風になっていくような、そういう示し方しております。皆様は今一番ご関心があると思いますのが、今回のような地震が起こったときに我々の地域がどうなるのかだと思います。今回の地震はマグニチュード9.0でございました。私ども倉敷市には沿岸部に約10センチ程向こうの地震の影響で、はるか離れておりますけれども参っております。これが今回の東南海、南海地震がいつしよに起こった場合、マグニチュードが8.6で起こった場合にどうなるかが書いてあります。

それで浸水が起こる地域、それから逃げていただける方向などが、書いてあるところでございますけれども、今後についての見直しをしていかないといけないと思っております。

例えばこの亀島山のところが、この近くの地域についてはこちらに、逃げた方がいいのではないかとということで、この「洪水ハザードマップ」に書いてあります。しかしながら、今回のように、一番大きいところは3メートルくらいの浸水ですけれども、それが想定よりもたくさん津波が来たときに、亀島山は周りがこの色ですから、山の上はもちろん大丈夫だと思いますが、孤立する可能性が出てくるのではないかと思います。この松江の緑地の大島山のところもそうかもしれないと調べております。JFEさんの広江のグラウンドとか、古城池トンネルを出ましてから、こちらの山の地域については大丈夫だとは思っておりますので、なるべくこちらの地域に逃げていただいたら、いいのではないかとこの事をもう一回考え直しています。ただ、逃げるといっても時間もなかなかないので、近くに早く逃げないと

いけないんじゃないかと思うのですが。もし8.6の地震が起きた時、倉敷市に東南海、南海、和歌山、高知から津波が来るのは、約2時間半してからこちらに伝わってくるようになっております。通常であれば、少し準備をしてから逃げていただいてもすぐのところの、お近くの方もいらっしゃると思いますが、できれば一面が山の地帯に、逃げていただくが必要になってくるのではないかと、検討をしたいと思っております。

また、こちらからは遠くなってしまいますが、これまで避難所が第三福田小学校とか四福とか書いてあるんですけれど、この地域であれば、新たに倉敷芸術科学大学をお願いをいたしまして、芸科大にも我々市民が逃げられるようにという協定をいたしました。つい、約1ヶ月半ほど前でございます。玉島でいえば作陽大学さん、倉敷でいえば川崎大学さん、児島、天城、藤戸の近くであれば、岡山学院大学さんと、比較的大きな敷地とグラウンドと高いところにある地域、広い地域を持っていらっしゃるのと、協定を徐々に結んでいるところでもあります。そういうところを含めて見直しをしていきたいと思っておりますが、今お配りしております、ハザードマップの青い分からは見直しが必要になってくるのではと思っております。教育委員会の方に各小学校の標高をもう1回調べ直してもらっています。避難場所に多くの場所がなっているのですが、それが3メートルだったら大丈夫ですけども、もし倍の津波が来た時にどうなるかということを含めたときに、この小学校であれば何階以上のところであれば大丈夫とか、倍も来たら小学校全体が難しいかもしれないとか、そういうのを洗い直ししているような状況です。全般的にその津波という面では私が地震の先生とかに聞いていますが、こちらの瀬戸内海はもともと水深が海の中では浅い方でございます、東日本の大きな地震が、海面のところが跳ね上がって凄い津波が来るという事はないので、その過大な心配はないかとは思いますが、その点が1つあると思います。

もう1つは、水島のコンビナートさんの防災計画が非常に大切になってくると思います。

多くのところは黄色が、浸水がしにくいとなっておりますので、この緑や青のところよりも少しは浸水しにくい地区ということで、もともと岸壁をけっこう上げていたりされています。ただ今回のようなことで、千葉でずいぶんと火の手が上がったことがあります、心配のところがあると思いますので、コンビナートさんにもう一回見直しをしていこうと、お話をしています。コンビナートの防災計画は直接には岡山県の防災担当にはなるのですけれども、県に任せておけばいいというわけではありませんので、一緒に、もう一度この地域の防災の計画を進めていきたいと思っております。もう1つ、今回の震災で言われておりますのが、地面の液状化のことが、皆さんご心配ではないかと思っております。液状化のことについて私も専門家の方に聞いてみたのですが、埋め立ての地域ということに関して言いましたら、倉敷市内のほとんど、こちらの水島の地区だけではなくて、倉敷市内のほとんどの地区がもともと比較的海の近くにあったり、海、川を埋め立てたりして作っているところが非常に多いということで、地域全般にわたって液状化の可能性が非常に高いのではないかと、どこの地区だけが非常に大きくなるというよりも、市全体で、岡

山市も比較的中心部の方がそうだとおっしゃっていましたが、どこだけが液状化になるというより、全般的になるのでなかなか液状化だけの対策というのは難しいと見解をいただいています。

しかしながら液状化して全体が下に沈んでしまう訳ではございませんので、液状化に関してご家庭でできる対策についても、だんだん研究されていると聞いておりますので、そういう点についても、市からも何かしらの対策なり広報をしていく必要があるのではと全般的には思っております。なにより今回の災害のときに、私が現地に行きまして思いましたのは、市にこの災害が起こったときに、想定外ということではないのですから。想定がそれより上になったときに、どうやってここだったら必ず安全だという避難場所を、火事だったら平地ですけれども、地震だったら必ずとにかく高台の方に行くということを、皆さんの方に何回も解っていただかなければいけないのではと思った次第でした。

災害の話ばかりしているのも何ですので、このくらいでやめたいと思います。気持ちを新たにするために、今日、近くでもありましたので、これまで1回だけ行った事があったのですけれど、千人塚にもう1回行きまして、お墓の前で、明治17年ですので、130年前位ですが、そんな事が絶対無いようにしないといけないということで、気持ちを新たにしまして、ここに参りました次第です。

自主防災組織や地域の町内会でも皆さんのご関心が非常に高いのではないかと思います。

防災の担当者も、出前講座なども含めまして、今後も皆さんに一生懸命お話をさせていただきたいとっておりますので、ご関心のあるときはご連絡をいただきたいと思います。

防災のお話はこのくらいにいたしまして、倉敷市全般のお話を少ししたいと思います。

倉敷の駅の周りが今年ずいぶん変わってくると思います。チボリ公園が閉園を致しました時に、イトーヨーカドーさん、三井のアウトレットの大きな施設が来るということで、全国から多くの方が来られるようになると思います。渋滞なども混まないようになるということはないと思いますが、道を広げたりと地域の皆さんのご協力をいただいて何とか、混みにくいようにと考えております。

それから、もう1つ旧の水島サロンの事につきまして、1年間お休みをいただいておりますが、県から譲っていただき改修をいたしまして、今年の4月から半分ですけれどもオープンいたしております。あと半分は来年にオープンできるようにと、かなり大きな芝生の広場を入れました。水島の地域の中核の施設と市としても考えていきたいと思っておりますので、ぜひ足を運んでいただきたいと思います。

意見交換の中で、いろいろご意見をいただければと思います。よろしくお願ひいたします。それでは今お話をいたしました事でも、全然関係ない事でもかまいませんので、市の事で何かご意見ご質問いただければと思います。

《参加者 A さん》

こんばんは。年金生活しております、倉敷総社温暖化防止協議会に所属いたしまして、毎回第3水曜日にイオンモール2階の催事場で市の環境政策課と共催で「伊東家の省エネ」というのを行っています。啓蒙活動ですけれど、省エネに節電、市長の名を借り、伊東家。

《市長》

TV番組とか・・・。

《参加者Aさん》

私は伊東家の長男になっておりますのでよろしくお願いいたします。来月の19日にライフパークで行われる倉敷環境フェスティバルでも205会議室でやっています。ぜひお立ち寄りください。待機電力とかLEDとかが身につくクイズなどもしていますので、2、3質問させてください。東日本大震災では東電の原発災害については放置するとどうしようもなく、「見えない放射線で大変なことになる」ということが解りました。コンビナート災害では先ほど市長からお話がありましたけれども、千葉とか宮城で火災が発生しましたが、津波警報がでていたり、実際に消防活動できなかつたのですけれども、放置するしかない状況でも、見た目は非常に大変な火災ですけれど、燃えるものがなくなれば終了することが解って、ほっとしました。水島コンビナートについて言えば、大変なのは有毒ガスです。そういうのがどの程度あって、万一それが燃えた場合の影響について知りたいと思っております。それから環境関係で煤塵測定などをやっていない会社などがありました。規則で決められていることをやらないのは悪いのですが、常識的に考えて測る必要のない煤塵を測らせている国や県や市も悪いと私は思います。無駄な作業業務をやめるよう改正してはいかがでしょうか？目で見て煤塵がどこから出るか鷺羽山スカイラインから見れば一目瞭然です。

次にコミュニティについてですけれど、市が進めています地区コミュニティ、小地域ケア会議それから社会福祉協議会がやっています地区社協があります。こういうものの組織率というのも65~70%と伺っています。民生委員が把握している世帯数と実際の世帯数の比率も同じようなものと聞いております。先ほどお話しました3つの会議体についても小学校区単位に活動していますが、3つとも全部行っている学区というのはどれくらいあるのか解りましたら。これらの目標組織率と目標達成年度も合わせて教えてください。

次に自主防災組織、町内会単位で結成が可能ですので、私の町内会では今までなかったんですけれど、4月末に結成いたしました。町内会は旭丘小学校に所属していますけれど、3のコミュニティ、地区会議、福祉協議会、地区社協というのはいつできるか解らない状況です。同じ税金、同じ募金をしているのに、組織へ補助金が、我が町内会には入ってきません。嘆いてばかりでは前に進まないの、町内会でCC会なるものを30日に立ち上げます。CCはコミュニティとケアの頭文字から取りました。町内会で行うこれらの取り組みにも何らかの助成をお願いできないでしょうか？小学校区で行うよりも、自主防災組織による町内会単位で行う方が向こう三軒両隣の関係がより親密になると思いがいかなうでしょうか？あとは積極的、継続的に継続していく、模範的なこれら3つをやっておられる

学区がありましたら、紹介していただければと思います。それと、これ以上、なぜ組織が進まないのか原因究明と対策が必要だと思えます。

《市長》

はい、いろいろ全般に渡りましてのご質問ありがとうございました。まず災害のことから、ご質問にお話を申し上げたいと思います。やはりコンビナートの地域の災害の対策というのが、皆さん気になっておりますし、私どもも非常に気になっております。コンビナートから伺っておりますのが、それぞれの会社におきまして、一定以上の地震が起こった場合、設備が止まったり中のものが出てこないような耐震性を持っていたり、弁が閉じるということになっていたり、安全な仕組みを作っていると聞いております。

それについても全般的にチェックをしていただく必要があるのではないかと考えておりました。今回の災害のことを踏まえて防災計画の見直しの際に県と一緒にコンビナート企業さんに再度、取り組みを申し上げたいと考えております。それから煤塵測定のことについてご質問をいただきました。こ新聞等でご存知かと思えますけれど、最初に煤塵が出ていなかったの、ずっと測定をしていなかったと言われておりました。市でもこれはいけないということで指導をしております。この測定については、国でどれをすとか、これはしなくていいとか決まっておりますので、市だけでこれはゼロだからしなくていいというのはなかなか難しいかなと考えております。

最後の3番目のコミュニティや自主防災組織の事で、細かな数字は後ほどでもご説明をさせていただきたいと思えますが、地区によって、非常に自主防災組織の結成割合だとか、町内会が非常に強固なところは、わざわざコミュニティ協議会を作らなくてもいいのではないかというご意見もあるようで、地域によってずいぶん違うようになっております。ただ、自主防災組織につきまして、たまに新聞に出るのですけれども、倉敷市は岡山県でも結成率が高ければ言いというわけではないのですが、結成率が下から2番目になっており、非常に低いわけでございます。その率が36.4%だったと思うのですけれども。それがどこまで入っているかといわれれば町内会単位のところもあれば、もっと大きなコミュニティ単位のところもあって、率の計算の仕方もいろいろあるんですが、その自主防災組織の結成という面では、まだまだ皆様にご協力を賜らなければいけないと思っております。コミュニティについては、浦田でコミュニティの立ち上げをされているので、市からこれをしてくださいと町内会、コミュニティ、協議会をしてくださいというのは難しいものですので、町内会地域の皆さんでつくっていただいて、市にいろんな行事のときにご相談いただくという形でできれば、ありがたいなと思っておりますのでよろしく願いいたします。

《参加者 B さん》

直接、市政とは関係ないのですが、プロ野球球団がありますよね。これをもっと倉敷すなわちマスカット球場に勧誘誘致をしてほしいというお願いです。この件に関しては、石

井岡山県知事がすでに楽天の沖縄キャンプで星野監督にお願いしたと聞いておるのですけれども、倉敷市と施設に、星野監督は地元でもあれば、僕の先輩でもあるのですけれども、地元を思う郷土愛というのが人一倍多い方です。僕は性格をよく知っていますんで。倉敷市はもっとプロ野球機構および関係者に積極的にアプローチをしていただいて、マスカット球場はお客を呼べない球場であるなら仕方がないのですけれども、平成7年にマスカット球場が完成して公式戦が何回もきているのですけれども、最近は年々数も減ってきている状態で今年も7月に1回だけ。年間10試合位は無理としても、大体5～6試合くらいはあったと思うんです。そういう風に近づけていただければいいのですけれども、人が動けばお金が地元地域に落ちるといって町が動き活性化すると思うんです。大人には娯楽ですよ、子供にはプロ野球の醍醐味を味わい、1選手のプレーが心に焼きつくと思う。そういうことが、野球が好きになって将来の岡山県の高校野球に発展するんだと思う。ぜひともプロ野球球団を積極的に誘致してほしいとよろしく願いいたします。

《市長》

倉敷市の全般的な事と、今言っていた事は非常に大事な事だと思っております。星野監督に関しましては、大体、帰ってこられるたびに、もしくは石井知事がお会いをしまして、楽天のキャンプ、そして本試合をマスカットでということで、毎回会うたびに申し上げております。沖縄へは石井知事が全体の会長ということで行かれまして、私は星野監督にお手紙を出しまして、お手紙を持っていってもらったのですけれども、監督の気持ちとしてはこちらでもっとキャンプとか試合をやって行きたいと言われております。先般確かニュースでオールスターが、仙台で一試合やるような事になったと出ていたと思うのですけれども、春の時点では、秋のキャンプについてマスカットでやっていただけそうな可能性は非常に高くなっていたと思うのですけれども、災害が起こり、が本当に可能なのかどうかということを心配しております。楽天の選手の皆さんも、地元の仙台から離れると地元の皆さんに対して悪いのではないかと思っていらっしゃるようで、もしかしたら今年のキャンプがマスカットではないかもしれないのですけれども、いずれにしろ星野監督の楽天の事と今言ってくださったそれ以外の事と、それ以外の試合を誘致していかなければいけないと思っております。言われましたように試合の数も少なくなってきておりますので、楽天だけじゃなくても、他の球団でも誘致活動ががんばりたいと思います。

《参加者 C さん》

要望ですが、倉敷の広江の憩いの家は、倉敷市の中でも一番大勢の人が利用されていると聞いています。広江の憩いの家だけというのではないのですけれども、皆さんが要望を出しているのですけれども、手を洗ったあとに乾かす電気の機械を正式な名称は解りませんが、エアーで乾かすその装置をぜひともつけてほしいと、どうかよろしく願いいたします。

《市長》

なるほど、ありがとうございます。ご要望は出してくださったんですね。

《参加者 C さん》

はい。要望は出しているんですけど、どうなっているかは解りませんが、帰ったら何がしかピシッとお願いします。

《市長》

ありがとうございました。ご要望の次第については帰ってしっかり聞いてみます。

それが憩いの家につけられるものなのかどうか解りませんが、装備品と、少し補助をつければ付けられるということもあるかもしれませんし。検討しますので。

《参加者 C さん》

はい、検討してください。

《市長》

今、広江の『憩いの家』の話をしてくださいましたけれど、なかなか憩いの家に伺うことは無かったんですけど、伺ったときに活発なご活動をされていまして、利用率も非常に高いことでもっと皆さんが各地区でいいところを見習って使っていただければ、皆さんが健康で元気で長生きをしていただくと、そうすると倉敷の健康保険料の予算が非常に苦しんでおりますので、皆さんが元気で長生きしていただけるような施設にはもっと力を入れなければいけないとか、伺いまして思いました。大変ありがとうございました。貴重な経験をさせていただきました。

《参加者 D さん》

インターネットで見ますと、水島港は国際バルク戦略港と申しまして、まず11港ですかね、その中に名を連ねていますけれど、将来は日本三大バルク港になるかもしれないというようなことも聞いております。しかしながらその埠頭の周辺というのはほとんど企業の私有地であり、その港湾を見渡すことができない状態ですので今後につきまして、もしバルク港にでもなるようなことがあれば、もっと市民も楽しめて誇れるような、港公園とかあるいは企業の協力を得ましてその周辺に遊歩道を造っていただいて憩いの場が持てるような環境整備もして欲しいと思うのですが、いかがでしょうかという要望が1件。

もう1つはデマンドタクシーについてお尋ねしますが、今車社会の中で高齢化社会がますます進んでいます。車の運転ができなくなってくる高齢者がたくさんいると思うのですが、それはどこも同じようなことなんですけれど、私の住む広江という地区は特に高台に

開設された集合住宅が非常に多いのです。毎日の買い物にはいろいろ苦勞されている方が多いのですが、今後交通会社とも協力し合っでデマンドタクシーの導入を考えてみようかなと思っでいるところなんです。他地区ではすでに導入されているところも多いようなので、利用者も少なくて赤字一方だというように成功例が少ないようなことも聞いており、倉敷市で相談に載ってもらえるような窓口とかあるいは支援をしていただけるような窓口とか、支援をしていただけるような制度はあるのでしょうか。

《市長》

最近の事についてのご質問をいただきました。まず1点目国際バルク港湾の事についてご質問をいただきました。国際バルク港湾と言いますのは、日本国の中で、大きな港がいくつもあります。例えば千葉の鹿島とか名古屋の港とか水島の港、この近くで言えば福山下関、宇部の港、鹿児島港など日本の中でも、外国の港との大きな荷物のやり取りをする必要がある港についていくつも、上の方に函館ですとかいろいろあるんですが、そういうところも含めて、国で重要な港をいくつか選んで、そこへ今以上にもっと投資をしていこうという仕組みが国際バルク港湾です。港のことなので、岡山県が直接の担当になるのですが、倉敷市はJFEさん関係の鉄鉱石、もう1つ、穀物のことにつきまして、今国に申請をしております。まさに、今日、国で点数付けがどうやらあったようでございまして。だめだったらもう連絡が来ているんじゃないかと思っでいますけれども、割といい線はいつているんじゃないかと思っでいるんですけれど。どういう仕組みかと申しますと、国が集中的な投資をして、市とか県もお金を出しましてこれらの企業の埠頭がもっと使いやすく、国際競争でも勝てるようにしようと、公共のお金が結構入るようになると思っでいます。市や県のお金も選ばれた暁には入りますのでその時に、今私有地になるんですけれども、何か、今後整備をするときに、公共のお金も入ることで、安全面の観点からどれ位していただけるか解らないんですけれど、言われたような遊歩道ですとか、港に出られるところですかを設けてもらったらいいなと話をしておったんですが、今日お話を伺いまして、より思っでました。我々も私有地で企業だけがお金を出すのであれば何も言えないんですけれども、公共のお金も入りますので、どの部分かでもやっでいただくようにしたらいいのではないかと、思っでおりますし。

それから、お話がずれますけれども、玉島のハーバーアイランドがございまして。実はこれまで約1年半かけまして誘致をしてきました。この3月1日に発表になったのですけれど、航空機の産業が玉島のハーバーアイランドのまず一区画にきてくれることになりました。これは倉敷市、岡山県にとりまして、画期的なことなんです。名古屋の港と競争しまして、我々が採ったということになりましたので、玉島ハーバーアイランド、水島の港に來た航空機産業というのは水島コンビナート企業さん全般に対して、それから、水島の大手の企業さんだけでなく、中小の技術力の高い企業さんに対して必ず、中、長期的に見て、いい影響になると思っで一生懸命誘致をしておりました。我々が言っでましたのは防災

のことで、災害も少ないですから安全だということで、それから水島の技術力が、コンピナートさんの関係もあって非常に技術力も高い中小企業さんがいらっしゃるという事、これは総社も含めてだと思えますけれど、そこに中核の1つがくれば、県にも玉島ハーバーアイランドをまだまだ空けてもらっていますから、まず1つ大きなのが来て今後また来ていただけるように、誘致をしていきたいと思っております。国産飛行機の部品の一部を作ることとなりますので、今後の広がりがよくなってくると思い、西の飛行機の拠点を是非とも水島に、もともと飛行機の製作所もありましたので、もう一回その技術力が戻ってくるような、繁栄が戻ってくるようなところでできればいいなと思っております。

国際バルク戦略港湾については、あと1~2週間で決まるんじゃないかと思うのですが、受かりましたら新聞に出ると思えますので、よく読んでいただければと思います。受かったらいろいろ改革もできると思えますので、がんばりたいと思えます。

タクシーの事ですけれど、市の確か6箇所位、デマンドタクシーをやっている地域があります。一番重要なのは、ある程度地域の範囲が解っていて、それで地域でデマンドタクシーに関与をしてくださってそれに対して、市で補助金の制度もあるんです。庄新町のデマンドタクシーとか、西坂、あの倉敷インターの方ですとか、そちらはなんか結構うまくいっています。ある程度地域が決まっています、それで皆さんが結構、乗られるということになれば、うまくいくのではないかとおもいます。お考えでいらっしゃるのであれば、交通政策課のものをすぐに派遣いたしますので、ご検討をよろしく願いできればと思います。なかなかバス会社も苦しいということで、大きな縦の幹線は何本か残してくださると思うのですが、細かな端周りのところは、難しいんじゃないかという気がしますので、地域でデマンドタクシーについてご検討いただければ大変ありがたいと思えますし、市も応援いたしますし、話を聞いてやっていただきたいと思えます。

《参加者 E さん》

NHKで昨日と今日と倉敷の防災力ということについて今日も6時半からNHKで、今日は水島の防災力ということで放送があると思うのですが、私もこれを機に家に帰って、家族が見ていると思うのですが、どういことを話されてるかを聞いてみたいと思えます。それと、工業地帯ということで、水島と福山市ですかね。僕は常に福山も意識しているのですが、昨日でしたか、太陽パネル、一千世帯分くらいですか。中国電力さんと福山市がタイアップして、今年の12月に完成するというのを、昨日確かテレビで見たと思うのですが、お金のかかることですが、倉敷市はいかがでしょう。

《市長》

太陽パネルとはどんなものでしょうか？

《参加者 E さん》

太陽光発電、家庭用を1,000世帯ということは相当な。要するに成立する土地55ヘクタールだったかな。福山市は各支店に、それで中国電力さんはやっておられるらしいのです。一年位前から計画して原発の問題が起きる前から、両方で検討されてやっている。お金のかかることなので、はいと言って市長も答えづらいと思うんですけど。原発に対して、我々は怖いですから、長期で市もそういうことはどうでしょうかと提言したいと思います。

《市長》

太陽光発電のことについて御質問いただきました。市の全般的な考え方ですけど、私が市長に就任いたしましたから、個々人の世帯の皆さんに対する太陽光発電に関する補助の件数をずいぶん多くしました。それまで1年間に百何十世帯ぐらい補助の予算をとっていたのですが、ここ何年かは1千世帯分の予算をつけております。ちょっと伺ってみたいのですが、太陽光発電を、もう家につけられている方はどれくらいいらっしゃるでしょうか。ありがとうございました。徐々に増えてきているのではないかと思います。今日10%くらいの方が手を上げていただきましたけれど、市としては、まず個々人の世帯の普及を図っていきたくと思っています。それから公共施設の新しくする分については太陽光発電とか、旧の水島サロンの新しく改築した分も、屋上のところで、なんて言うんでしょうか、巨大ゆワイターみたいな感じですけど、設置しまして、湯の循環で経費を節減するというのをに入れてやっています。今言われましたのはメガソーラーという、新聞でたまに出ておりますけれど、メガソーラーの設置場所について、岡山県と相談をしましたときに玉島ハーバーアイランドが敷地としては、今も空いてはいますけれども、先ほど申しましたような航空機産業の今後の誘致のことについて、力を入れていくという面では、敷地を空けておかんといかんだらうという話になると思ひまして、メガソーラーをそこばかりというのもまずいと思ひまして、あとは結構相談したんですが、福山が出されているような10ヘクタール近くの平地、それだけの場所が市内にないんですよ。今回の分では手が上げられなかったというのが現状でございました。まずはせつかくの晴れの国でございますので、太陽光発電の各ご家庭の分とか、電気自動車とか、倉敷市が世界初の量産型電気自動車を作っておりますが、それらを一生懸命やっていきたいなと、思っております。

《参加者 E さん》

中国電力さんとは話をされたことはあるんですか？

《市長》

中国電力さんと話はした事あります。

《参加者 F さん》

今日お話を聞きたかったのは玉島ハーバーアイランドで、これから貨物輸送というのも非常に増えるのではないかと私は思っているのですが、その辺の内容が解らないのと、あれから国道の630号線、530号線、それからつながって広江の方に繋がるんですよね。

《市長》

橋のことでしょうか。

《参加者 F さん》

ええ、橋がありますんでね、そうなりますと、その貨物というのはどういう形で増えるのかというのが我々の一番関心事です。今でも広江の県道は混んでいるんです、朝なんかは裏道を通り抜けるような車がいっぱいおります、車両の制限等も含めて今後の課題かなと思っています。ぜひ長期的な展望をお願いしたい。私が考えましたのは、玉島と水島と玉野あたりを結ぶような電車を造っていただいて。10～20年先を考えておかないと大変な事になるなど。結局、車社会というのは今から少なくしていかないといけない。先ほどのソーラー発電も含めまして、確保しないといかんと、省エネもしっかりやらなきゃいかんと、倉敷、総社ですか。温暖化関係が新たに出ましたけど、その辺の方々の活動も含めますとね、そういう夢物語もある程度考えておかないといけないなと思ってくだらない話をさせていただきました。

もう1つ、私の義理の父が、今年の今頃だったんですけども、アイカードをもらいました。アイカードの協賛会社を見ますと、タクシー会社が一社もなかったんです。水島で。今年、今の時点で検索しましたら、4社のついでにいたけど、それはいいとして車を捨てるわけですから、自分の足を捨てると一緒になんです、そういう方たちに対する思いやり、そういうものを感じないんですね。その辺を少しご検討していただきたいと、アイカードをそのまま自分の身分証明になるような形で運用できればいいかなと思いましたが。

《市長》

玉島の橋の話もさっき一緒にすればよかったんですけど、水島と玉島のハーバーアイランドを結ぶ橋も、ここの遊水池のところから、こちらの玉島のクラレさんのところの敷地にかかるようになっており、今工事が徐々に始まっております。大きな目的は、水玉ブリッジも無料になっておりまして、それから霞橋も非常にコンビナートの地域と、特に玉島のこちらの地域の車の流通と言う関係で、トラックと普通車で非常に混在していて危ないということもありましたので、国に要望いたしまして、これをつけてもらえることになりました。一応今の予定では平成27年度中には何とかできるような方向で国も進めていただける予定だとは思っているのですが、もしかしたら、東日本の復興で予算がある程度向こうにいくかもしれませんので、少し遅れるかもしれないのですが、そういう状況です。これに

よって流通が変わるのではないと思いますが、ものすごく変わるかはわからないのですが、こちらのハーバーアイランドの船で出す荷物の量を、環境の面もありますので、各社増やしていこうという考えでいらっしゃるということを聞いております。そういう需要もあるのでこの橋を使えば、高速道路だったら水島のインターから乗ればいいということで、ずいぶん車が多いとは思いますが、少しでも大きな橋で、こちらの玉島の方から行っていただければ少しこちらに行って危ない通行とかもよくなって行くのではないかと考えております。

もう 1 つご質問いただきましたアイカードは、免許書を返納された場合、岡山県警さんで、多くのところは、両備バスさんと下電バスさんが半額になって、タクシーが大体 10%引きになるという分でございます。今岡山県内に 7, 0 0 0 人それを使っているということを伺っておりまして、県に身分証明のことについて、聞いたところ、公式の身分証明ということは難しいように聞いています。健康保険証とか全国的に使える法律で決まっている分じゃないと身分証明書にはならないらしいです。住民基本台帳カードが市で発行してありますので、それをご利用いただければと思うのですが、アイカードについて今日お話いただきましたので、県警と定期的にお話をする機会がありますので、特にタクシーとか、今水島の 4 社と言われましたけれども、倉敷地区も含めて機動的に動けるようなところを増やしてもらいたいと要望を言わせていただきたいと思います。いっぺんに増えるか解りませんが、そういう意見をいただいた事を県警に言えば県警もやる気になってやってくれると思います。

《参加者 G さん》

広江には約 2, 1 0 0 世帯あり、そのうち町内会に入っているのが 1, 8 0 0 です。広報くらしきは町内会を通して配っておるわけですが、入っていない人は配っているのか、配っていないのか。配っていないのであれば、そのまま終わるのか、配る方法が他にあるのか。配る方法を市は考えられておるのか。その点をお尋ねしたいと思います。

《市長》

広報紙については、基本的には町内会にお願いして配布をしていただきたいと思います。お願いをしている訳でございますが、町内会に入らない方もいらっしゃいます。そこが実際に市としては困るところでありまして。必ず町内会の人でないとお願ひできないかと言いますと、ある程度単位がまとまって、例えばアパート 1 つとかいうので配布の世話役の方を決めていただければそこをお願いをするということも可能です。今入られていない方は支所とか出張所とかにおいてありまして、それを取っていただくということになっております。

《参加者 G さん》

地域の人との交流が少ないという 1 つはある訳ですけれど、防犯上の新聞等で見ると、近所づきあいよくない所で問題がよく起こってるし、自主防災を作るのにしても困るわけです。広報紙かなんかで突破口ができればなと思ひまして質問しました。

《市長》

最小で 4 世帯くらいの単位で自分が配りますと言うことでそこの方へお願いして、配っていただける事ができるみたいです。例えばアパートだったらアパートの方が内のくらしき情報発信課に連絡をして登録をしていただければ。そこに決められた日にお持ちするような仕組みになっております。世話人の方が 10 世帯なら 10 世帯毎配っていただく事になっております。言われるように地域の繋がりを高める 1 つの大きな手段だと思ひますので、広報紙の入っていらっしやらないところがあるという風に広江さんの場合は町内会の結束も非常に高くいらっしやると思ひます。入っていらっしやらないところはそれでも 300 世帯ということですね。広報課と町内会の担当の部署とそれから広報紙の担当の部署とでまた検討させていただきたいと思ひます。ありがとうございます。

《参加者 H さん》

呼松地区ではお願いがあります。バスのことです。倉敷行きは一時間に一本ずつあります。水島行きがありません。水島方面の病院に行くのにタクシーを利用していますが、できればマイクロバスでも午前と午後、一往復だけでもあれば、呼松から広江、また一福学区の方もうれしいのではないのでしょうか？水島地区方面に買い物もできると思ひます。サロンで催し物がありましてもなかなか参加できません。水島の活性化にもなるのではないかと思ひます。現在呼松は 389 戸で 850 人くらいの人口で、その中 70 歳以上が去年の 9 月では 340 人その中で独居老人が現在 61 人おられます。元気な方でもなかなか歩いていかれませんので、今年から、一年生は 4 月から 4 人入学ただけで高齢化が進んでおります。そのことをお願いしたいと思ひています。よろしくお願ひします。

《市長》

ありがとうございます。実は、水島地区のことではないのですが、倉敷駅の周辺のことです。今から 5 年くらい前のことだったと思ひます。倉敷の駅のところから中央病院とか、老松とか、平成病院とか美観地区を含めて、そのあたりをバスが循環しまして、市とか商工会議所とかバスを運行したとき、どの位人が乗られるだろうかをバスを借り実験したことがあったのですが、バスに乗る方が非常に少なくて、採算を取ったら難しいのではないかという事になりました。それがこの水島地区に全部当てはまるかどうかは解らないんですけれども、今の市の考えではさっき申しましたが、乗り合いタクシーの小さな車からでもできると思ひます。それで、乗られる方がどんどん多くなつたときにそれをちょっと中型の車にするとか、例えば 8 人乗りみたいな車がありますよね。そういうものに

して、ちょっと大きなものにしていく、そういう方向で今やって行ったらどうかということになっておりまして、呼松で乗り合いタクシーがご検討されているのかどうか解らないんですけれど、ぜひ市としても市の横のバスがないというのは非常に困ったなと思っておりますので、乗り合いタクシーについても、一度お話を聞いていただければと思っております。呼松の町内会長さんもいらっしゃるみたいですので、こちらからもよろしく願いいたします。

もしだんだん乗っていただける方が増えてきて採算が取れることになれば、定期運行ということも可能になってくるかもしれないんですけれど、なかなか市営バスみたいなのが現状では難しいのではないかと思うのですが、市としても非常に問題意識を持っているところではありますので、一緒に考えていただければと思っております。ありがとうございます。

《参加者 I さん》

限界集落間近というような町なんですけれども。限界集落には程遠いんですけれど、1つ水の流れの一番下にあたる町として皆さんに聞いてほしい、一番汚い最後の最終地の呼松水門を持っていますが、福田公園の遊水池で、毎年ボランティアで夏、福田中学校と福田南中学校の生徒200人ぐらいと一緒に福田公園全体の掃除をしておりました。ここ5～6年前から遊水池のゴミがめっきり減りました。公園の中にネットを張り、上から流れてくるゴミを捕らえる、で遊水池が非常にきれいになり、もう大人が船を出してゴミを拾うことがなくなりました。で、そういうことを利用させていただいてゴミを最後に受ける呼松側の身になって北畝から中畝という風にポイントのところがあればそこにネットを張ってキャッチしてほしい、そうすれば見た目のきれいさは取れると思うのですが、もう1つの悩みは水の汚さです。どの程度の下水の普及率か私は存じていないのですが、すごい水の色なんです。呼松水門には3つのポンプがあります。昔は雨が降っても田んぼで受けて遊水池に流れてこなかったのが、宅地開発などで雨が降ると遊水池にすぐ流れてくるということで、ポンプは三つあります。台風のとくに電源が切れてもいいように3方から、そのポンプ用の電源が来てます。雷に当たってもいいようにいっぺんにどの三つも消えないようになっていますが、最後の4つ目が昔からの自然水門です。これが一番効果があるんです。抹茶色の水をスクリーンで出すと洗濯機の中のように泡が出ます。それが港に出て。通常どういう港かといいますと、満ち潮で水門をとめている時は、きれいな透きとおった青い水に今時期は変わっております。各部外者も水の排水とかそういうものに注意しまして港の水はきれいなのですが、丘から流れてくる水をそこから流すと、呼松の港はもう一転して茶色になってしまいます。一番水の流れが高いところから低いところに来るのですが、途中の皆さんがもう少し気を使っただいて、臭いもするしゴミもくるし色も汚い。私たちはそういうものをいつも受けております。どうか工夫をしていただいて、各町内ご

とに考えていただいたらなと思います。

《市長》

どうもありがとうございました。市内どこもそうでございますけれども、用水路ですとか、水路のゴミのこと、上流と下流の水の流れのことでご質問、ご意見をいただくことが多くございます。どこだけをやればいいということではないと思いますので、皆で協力してやっていただかないと解決していかない事だと思っておりますけれども、今言われましたネットのことだとか、高梁川全般的にもそうでございますけれど、川、流水池の領域全般的にご協力をいただけるとありがたいと思います。担当部署としても大きな仕事にもなると思いますので、今言うてくださいますけれども、各流域の皆さんにご協力を賜ればと思います。しっかりやらせていただきたいと思っております。ありがとうございます。もしよろしければ皆さんの方に一点、私の方から皆さんにお伺いしたいのですが、この3月11日に地震がありまして倉敷の地域にも10センチか何十センチか津波が来るかもしれないという事になり、市に防災無線で、夕方の4時かくらいから沿岸部へ放送いたしました。その声を聞かれた方はいらっしゃいますでしょうか？ありがとうございます。

《？さん》

放送されたけど風の反対側に居る地域では、そばで言っていたのがほとんど聞けなかったと、何を言っているのかほとんど解らなかつた。

《？さん》

大きな声にするとか、スピーカーの数を増やすとか、お願いできないでしょうかと言う意見もあったんです。

《市長》

なるほどですね。大体5%くらいの方が手を挙げたと思うんですが、その時には沿岸部の方にスピーカーを鳴らしたわけでございます。4時の1回目は私が言ったんですけど、それで今の設置としては、大体500メートルに1個付けまして、全体では三百何十個付けたんです。16年の台風災害の後にとにかく付けないといけないということで、台風の時に浸水しましたこの辺の地域、それから呼松の水門のところは監視用のカメラもポンプ場に付けまして、どこに付けるのがいいのかとか検討したんですけども、だんだん内陸の方に向かって設置をしております。一応500メートルおきに付けたのですが、今おっしゃったように向きとかでなかなか聞こえないと伺いまして、ボリュームをもっと上げたほうがいいですかね。毎月1日の日にピヨピヨピヨというのを皆さん聞かれた事はあるでしょうか。

《市長》

はい、ありがとうございます。だいたい聞いていただいたりしてと思いますが、朝と夕方と2回。7時台、7時半くらいですね。7時45分と夕方の5時台でしたかね。これも皆さんに聞いてみたいのですが、その度に声で言ったらうるさいのではないかという声もあって、ピヨピヨピヨという風にしてるのですが、今回の災害のこともあったので、人間の声で一日テストをする方がいいんじゃないかというお声もあるんですけども、皆さんに聞いてみたいのですが。今のピヨピヨじゃなくて人間の分で行った方がいいと思われる方はどうでしょうか？解りました。結構多くいらっしゃいますね。ちょっと見直しをした方がいいですね。通常であれば割と声は通るのですが、夕方の時は、車の行き来もあって聞こえにくかったとか本当の災害の時に台風の時だったらもっと雨が降っているのに聞こえにくいということがありますので。

《？さん》

スピーカーのない地域もあるので。

《参加者 J さん》

今お話をしていたピヨピヨも3月11日の声もまったく聞こえないというかスピーカー自体がないので聞こえないんですが。

《市長》

あとで場所を教えてくださいませんか。3月11日は沿岸部だけでしたので。

《参加者 J さん》

こちらに居られるのは皆南畝の人です。早く南畝にも早く設置していただきたい。とりあえず聞こえるように。

《市長》

あとで場所を教えてください。聞こえにくかったら言っていただいで、そのつどチェックさせてもらいたいと思っています。必ずチェックに参りますので、それが実際の災害の時に重要なことだと思います。いただきましたご意見、紙にも何かありましたら書いていただきまして、まちづくりに反映させたいと思っています。本日はありがとうございました。